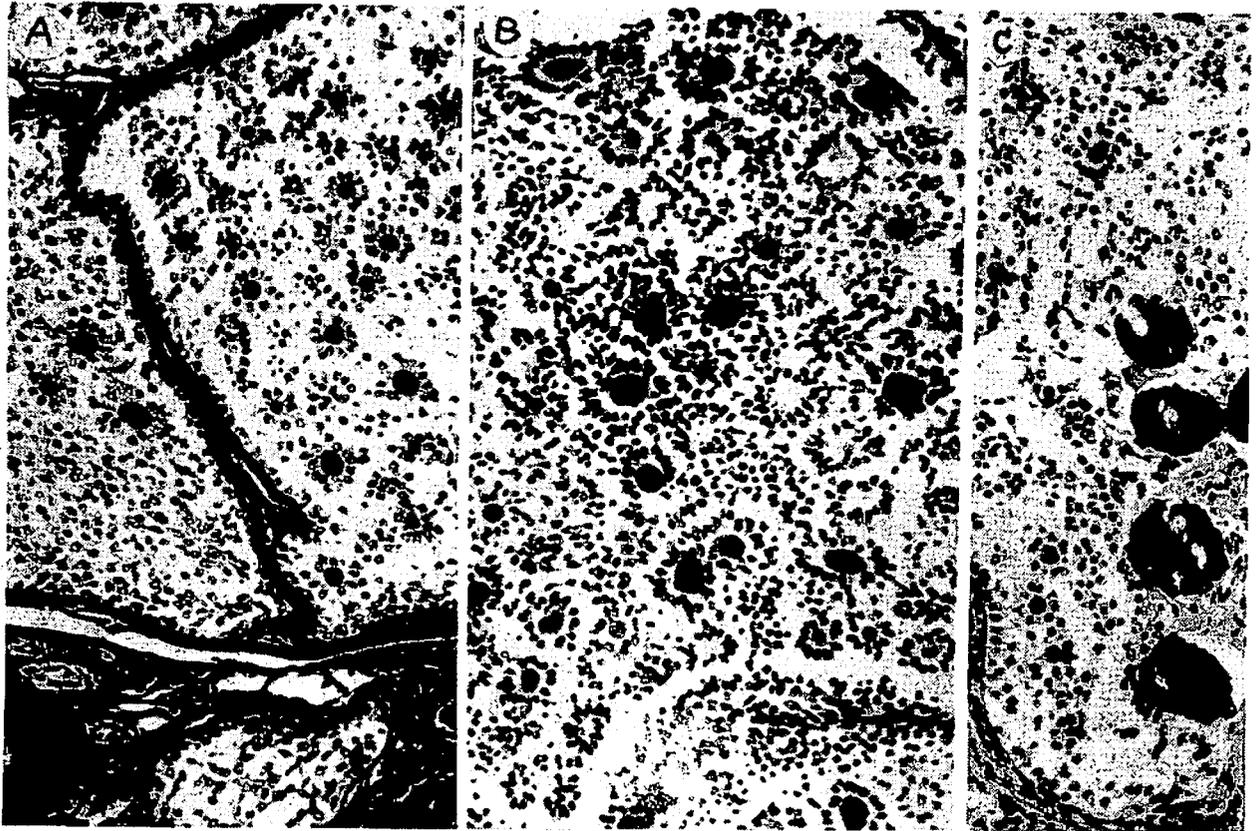


牛の卵巢顆粒膜細胞腫

麻布獣医科大学家畜病理学教室出題 第11回獣医病理研修会標本No.166



ホルスタイン系乳牛（♀，年齢不詳），廃用と殺牛のため，臨床的事項不明。

肉眼的所見：相模原と畜場で，無作為に収集したものの中の1つで，外観上は，黄体存在のためやや大きいという事その他，特に注目しなかった。固定後，断面をみると，黄体の他，いくつかの卵胞があり，これらの間に可成り厚い線維性結合織につつまれた灰白色部（最大径4 cm位）があり，肉眼的にもあきらかに蜂巢状構造が認められた。

組織学的所見：發育途上の卵胞，退行性過程にある黄体，卵巢網がみられ，これらに囲まれて，肉眼的にみとめられた蜂巢状組織が見出される。厚い被膜に連続する結合織は，各蜂巢内部に侵入することはなく，内には，エオジン好性，PAS陽性で，Azanで赤～青に多様に染色される物質をとりかこんで，顆粒膜細胞に一致する

形態的特徴を有する細胞が，見事な Rosette を形成しつつ，増殖しており，一部では，融合大型化するもの，石灰化し，層板状構造を示すものなどが，みられた。なお対側卵巢にも，同様の所見を認めた。

組織学的診断：両側性卵巢顆粒膜細胞腫。

研修会の席上，本例を典型的な Rosette 形成を示す，卵巢顆粒膜細胞腫と診断する事に異議はないが，類いの Rosette 様構造物が，少数みられる例は，決して少なくないとの指摘があった。

写真説明：（いずれも H&E 染色）

① 腫瘍組織は，粗大な膠原線維により区画されているが，蜂巢内への線維の侵入は，みられない。×150

② 腫瘍細胞の Rosette 形成は，典型的。中心部の物質は，エオジンに濃淡区々に染色される。×150

③ 融合，大型化した部分に石灰沈着を認める。×150